

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技 【結果速報】

試合 M11 2回戦

【2025/8/18】

西京 16 [5 - 3] 7 福岡工業
 2 - 2
 7 - 1
 2 - 1
 PSO

審判1 新井睦士

審判2 蛸名広貴

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	清角 圭介	30	7	59%
GK13	堤 珀來	0	0	

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	東 慶次	34	16	41%
GK13	烏山 小虎	0	0	

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	清角 圭介			
2	荒川 蒼空	5	3	
3	井上 大誠	5	4	
4	長野 留已	7	3	2
5	濱川 愛斗	10	3	2
6	坂東 汰一			
7	長尾 大樹	3	1	
8	堀 海童	1	1	1
9	毛利山 幹太			
10	三宅 天太郎	1		
11	大槻 瑛	2	1	
12	高氏 悠吾			
GK13	堤 珀來			

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	東 慶次	1		
2	井堀 結斗	8	3	
3	中尾 洸太	3		
4	大野 壱心	8	2	2
5	谷川 凜空	1		
6	松尾 太斗	1		2
7	大森 鈴夢	1		
8	勝木 那由多	4	1	2
9	高木 葉太	3	1	1
10	行武 諒			
11	安田 大志			
12	松本 陸希			
GK13	烏山 小虎			

R7 インハイ水球 Web サイト

<https://j-waterpolo.net/25Yamaguchi/index.html>



令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月18日（月）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

11

帽子的色 白

帽子的色 青

西京

福岡工業

16

7

5	-	3
2	-	2
7	-	1
2	-	1
PSO		

審判1： 新井 睦士

審判2： 蛭名 広貴

戦評

令和7年度全国高等学校総合体育大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月18日（月）、山口県きらら博記念水泳プールで行われた。ゲーム11は、初戦を突破し勢いに乗る西京高等学校（白帽）と、九州代表として出場した福岡工業高等学校（青帽）が対戦。両校は持ち味が異なり、西京は華麗なパス回しと巧みなコンビネーションを武器に、福岡工業は力強いフィジカルを生かした迫力ある攻撃を特徴とし、試合開始前から注目を集めた。

第1ピリオド、試合は序盤から点の取り合いとなる。西京は④長野のミドルシュートを皮切りに、③井上がペナルティを獲得して得点、さらに⑤濱川のポストプレーからの得点と多彩な攻撃で加点を重ねた。④長野はバウンドシュートも決め、相手守備を翻弄。対する福岡工業も②井堀が素早い動きから得点を挙げ、④大野も退水からゴールを奪うなど、序盤から気迫十分のプレーを見せた。両者が互いに譲らぬ攻防の末、スコアは西京5-3福岡工業。試合は序盤から激しい展開を予感させた。

第2ピリオドでは、両校のゴールキーパーが大きな存在感を放った。西京①滑角と福岡工業①東が次々と好セーブを披露し、簡単にはゴールを許さない。西京は⑦長尾、③井上が追加点を挙げたものの、福岡工業もキャプテン②井堀が個人技で切り込み、⑧勝木が力強い突破で得点を奪い返した。このピリオドは2-2のイーブン。前半終了時点でスコアは西京7-5福岡工業と、均衡した緊張感のある展開が続いた。

迎えた第3ピリオド、試合は大きく動いた。西京は⑤濱川がポストで得点を決めると、続けて④長野が3点目を挙げ、さらに③井上が圧巻のカウンター3連続得点を記録。華麗なパスワークから生まれる速攻はまさに西京の持ち味を体現していた。②荒川もカウンターから加点し、流れるような連携で一気に突き放す。福岡工業も②井堀が鋭い反応からワンタッチで得点を決め、意地を見せたが、このピリオドは西京が7-1と圧倒。スコアは14-6となり、勝負の行方は大きく西京へと傾いた。

第4ピリオドに入っても、両校は最後まで集中を切らさなかった。西京は⑧堀、⑩大槻が数的有利やカウンターを生かして追加点を挙げ、試合を完全に掌握。一方で福岡工業も④大野が力強いフリースローを沈め、キャプテン②井堀が最後まで退水を誘発するなど、果敢に攻め続けた。チーム全員が声を掛け合い、最後の一秒まで全力を尽くす姿は観客の心を打った。最終スコアは16-7、西京が勝利を収めたが、福岡工業の健闘も大いに光る試合であった。

この一戦を総括すると、西京高等学校は多彩な攻撃パターンと速い展開力を武器に試合を優位に進めた。⑤濱川のポストプレー、④長野や③井上の鋭い突破、②荒川の冷静な得点など、選手それぞれが役割を全うし、チーム全体として完成度の高い戦いを披露した。また、GK①滑角の冷静なセービングが守備の安定を生み、攻撃へのリズムにもつながったことは特筆すべきだろう。一方、福岡工業高等学校も敗れはしたが、その奮闘は大いに称えられる。②井堀を中心に④大野や⑧勝木らが見せた力強いプレーは、相手に大きな圧力をかけ続けた。特にキーパー①東は第2ピリオドで幾度も好セーブを見せ、チームを鼓舞した。粘り強く挑み続ける姿勢はスコア以上の価値があり、全国の舞台で存在感を示したといえる。

この試合は、華麗なプレーと的確なパスワークで主導権を握った西京と、持ち味である力強さを最後まで貫いた福岡工業という、対照的なスタイルがぶつかり合った好勝負となった。結果は西京の勝利に終わったが、両校が全力で繰り広げた攻防は観客の記憶に深く刻まれ、全国大会ならではの熱戦として語り継がれるに違いない。

記録者

伊藤・加藤・菅原